

居住性能評価指針改定小委員会 平成 26 年度第 1 回議事録（案）

日 時 2015 年 1 月 16 日 金曜日 18:00～20:15

場 所 建築学会会議室

出席者 松本主査、他 7 名

資料

1-1 第 33 回環境振動シンポジウム原稿

審議議題

- ・小委員会傘下の WG での作業進捗状況の報告
- ・指針改定の方針

審議

- ・資料に基づき、執筆者より原稿内容について概略の解説が行われた。
- ・学術的データから得られた性能値をどのように設計指針用ランクに落とし込むのか
 - 評価指針側からどのような資料を作成して設計指針側へ渡すのか
 - 評価指針側で作成された資料をもとに設計指針側で再度ランク設定を検討するのか
 - 学会基準の設定は学術的データによる根拠のもとに行うべき
 - ・現状はランク表現で対応
 - ・実験室での評価と実際の居住環境での評価の差異の取り扱い
 - 限られてはいるがクレームに関するデータ等も考慮して検討
 - 評価側でランク分けをすれば、感覚的に違いが分かるピッチが望ましい
 - ランクを何区分にするか（3段階、5段階）
 - 「振動評価基準」と「居住性能評価」では意味合いが異なる
 - ・「居住性能評価指針」の場合、基準を達成するための指針として考える必要がある
- ・設計は設計者の裁量にまかせるとすれば、設計指針ではなく「設計資料」か
- ・オーナの要求性能から設計目標性能を設定する
- ・学会「推奨値」を設定するか否か → 継続審議
- ・建築物の性能としての評価
 - 動作等による床振動の評価では部位性能としての床の評価が可能
 - 躯体が対象となるような水平振動については簡単ではない
- ・水平振動に対する文献調査整理結果の説明（日本女子大学生より）
- ・用語の統一が必要

以上